

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(生命理工医療科学先端研究特論)(医歯理工学先端研究特論)

記

1. 講 師 大阪歯科大学 客員教授 末瀬一彦 先生

2. 演 題 保険収載されている CAD/CAM 冠の動向について

3. 日 時 2020年9月24日(木)17:00~18:00

4. 場 所 Zoom によるオンライン講義

受講希望者は9月23日(水)までに、下記に連絡先まで問い合わせてください

5. 要 旨

2014年4月に上下顎小臼歯にCAD/CAM冠が導入され、その後上下顎第一大臼歯へ適用拡大、さらに2020年9月からは前歯部CAD/CAM冠が保険導入された。これまで保険治療においては、「金属(12%Au-Pd-Ag合金)中心の補綴治療」が行なわれてきたが、多くの問題点が生じるとともに、最近ではパラジウムや金の価格が急騰し、金属修復物の対価は医療費に大きく押し掛かり、歯科医院の経営にさえ支障をきたしている。金属による修復を脱却することからも「CAD/CAM冠」の保険導入は大きな意義がある。日本においてデジタルデンティストリーが普及し始めて約20年経過するが、その発展は目覚しく、スキャナーや加工装置、専用の材料の開発などがしのぎを削り、歯科医療そのものも大きく変革しつつある。CAD/CAM冠の治療件数は、2018年6月には155,000回で、前年同月比の30.3%の増加(小臼歯では15.4%の増加)である。しかし、現状ではまだまだその普及は十分ではなく、金属修復物が多用されるとともに、CAD/CAM冠の「脱離」や「破折」のトラブルも報告されている。前歯部CAD/CAM冠の導入によって一気にメタルフリーへの足がかりとなることを期待したい。

今回は、CAD/CAMテクノロジーの現在地と、前歯部CAD/CAM冠と小臼歯、大臼歯CAD/CAM冠との異なる点について、その臨床応用への留意点をお話させていただきます。

摂食機能保存学分野 三浦 宏之
(連絡先:野崎 浩佑 k.nozaki.fpro@tmd.ac.jp)